

東北未来リーダーズサミット

本県2人のスピーチ

東京で今秋開かれた「ビョントウモロ東北未来リーダーズサミット」(一般財団法人教育支援グローバル基金主催)岩手、宮城、福島の高中生らが被災体験を共有し、東北の未来像を提言した。サミットで、本県の2人が行ったスピーチを紹介する。

小川 彩加さん(18)

(釜石市出身米田・ミシガン州の高校に留学中)



震災で私は家族全員を失いました。両親・姉・祖父母がいなくなりました。これ以上失うものはないというくらい私は全てを失いました。

3月11日、地震の後、私は母と祖母と高台に避難しました。しかし、黒い壁のような波は私たちのすぐ背後に迫っていました。その時、母が言った「津波だ」という言葉が、私が最後に聞いた母の言葉となりました。

走って坂を上り私は助かりました。でも、どこを探しても母と祖母の姿はありませんでした。翌日の朝が来ると、母と祖母の名前を呼びながら探しま

た。木に刺さったおぼろげな光景は今でも私の頭から離れません。

数日後、姉が「なつたこと、父が行方不明であることを知らず、お母さんと一緒に避難してしまいました。遺体安置所で姉と対面したとき、姉の頬を舐り何度もおろりかとうと言いました。私の涙で冷たくなった姉の頬はぬれま

した。もしかしら目を覚ましてくれるんじゃないか、そう思いました。姉から離れたくないので、火

た。木に刺さったおぼろげな光景は今でも私の頭から離れません。

数日後、姉が「なつたこと、父が行方不明であることを知らず、お母さんと一緒に避難してしまいました。遺体安置所で姉と対面したとき、姉の頬を舐り何度もおろりかとうと言いました。私の涙で冷たくなった姉の頬はぬれま

した。もしかしら目を覚ましてくれるんじゃないか、そう思いました。姉から離れたくないので、火

た。木に刺さったおぼろげな光景は今でも私の頭から離れません。

山根 りんさん

(宮古商高3年)



私は宮古市という沿岸のまちに住んでいま

す。学校や家からも海が見えるほど海が身近なこのまちで私は育ちました。

あの3月11日、地震が起きたとき、ソフトボール部のキャプテンの私は、高総体に向けて、グラウンドで練習をしていました。地震の直後、学校に迎えに

来てくれた母と一緒に、私は帰宅してしまいましたが、その途中で津波に遭遇しました。大きな黒い津波に

の押し、私は奇跡的に助かりました。母は亡くなりました。私は母を助け、親孝行もできなかつたとい

た。木に刺さったおぼろげな光景は今でも私の頭から離れません。

数日後、姉が「なつたこと、父が行方不明であることを知らず、お母さんと一緒に避難してしまいました。遺体安置所で姉と対面したとき、姉の頬を舐り何度もおろりかとうと言いました。私の涙で冷たくなった姉の頬はぬれま

した。もしかしら目を覚ましてくれるんじゃないか、そう思いました。姉から離れたくないので、火

た。木に刺さったおぼろげな光景は今でも私の頭から離れません。

数日後、姉が「なつたこと、父が行方不明であることを知らず、お母さんと一緒に避難してしまいました。遺体安置所で姉と対面したとき、姉の頬を舐り何度もおろりかとうと言いました。私の涙で冷たくなった姉の頬はぬれま

した。もしかしら目を覚ましてくれるんじゃないか、そう思いました。姉から離れたくないので、火

た。木に刺さったおぼろげな光景は今でも私の頭から離れません。

ン州の高校に留学して

ました。その後、父と祖母は見つかりましたが、母と祖父は今も行方不明です。

たった一瞬にしてあまりにも多くのものを失い、なぜ自分だけが助かったのかと心も魂もどこかにいってしま

った気がして、震災直後はほんやりと高校を卒業したらどこかへ動きたいと思

っていました。けれど震災の後には皆さんの方々に出会い、世界が広がりました。人と人とのつながりの素晴らしさを知り、そしてその過程で芽生えたアメリカへの留学という夢は劇的なスピードで実現し、今年の6月からミシガ

人は助け合い、支え合っている。震災は合い、思いやりながら生きていくのだとあらためて実感した。私がたどってきた方々からきっかけやチャンスを得たように、私も誰かにきっかけやチャンスを与えてくれる人間になりたいと思っ

ています。過去は過去でもう戻ることにはできません。でもこれからの自分の将来は変えることができ

るのです。当たり前ですが、私にと

る。私にと

る。私にと

いと思ひます。今を自分らしく生き、自分が決めた道を突き進めることが、母にあり、恩返しです。

た。木に刺さったおぼろげな光景は今でも私の頭から離れません。

た。木に刺さったおぼろげな光景は今でも私の頭から離れません。

た。木に刺さったおぼろげな光景は今でも私の頭から離れません。